

# イタリア語における Wh 島内部からの抽出移動について スペイン語との比較において

Acerca de la extracción desde una isla-CU en italiano moderno  
en comparación con la construcción paralela en español \*)

石岡 精三  
Seizo ISHIOKA

## 0. はじめに

(1a)のイタリア語用例で示されるように、疑問詞 Wh 要素の Wh 島内部からの移動は排除される。Wh 島内部から移動する要素が D-Linked Wh 要素である派生は、適格と判断される(1b-c)。対応するスペイン語用例においては、一定の条件下で、疑問詞 Wh 要素の Wh 島内部からの移動が許容される。1)

- (1) a.\*[A chi]<sub>i</sub> non ti ricordi [sq quanti soldi hai dato ti]<sub>j</sub>? (Rizzi 1982: p.70)  
    'To whom don't you remember how much money you gave?'  
    b. [A quale dei tuoi figli]<sub>i</sub> non ti ricordi [sq quanti soldi hai dato ti]<sub>j</sub>? (ibid.)  
    'To which one of your sons don't you remember how much money you gave?'  
    c. [A quale dei tuoi figli]<sub>i</sub> ti chiedi [iq quanti soldi hai dato ti]<sub>j</sub>? (Cinque 1990: p.18)  
    'To which one of your sons do you wonder how much money you gave?'  
  
(2) a.¿[A quién]<sub>i</sub> dices que no te acuerdas [sq qué le has dicho ti t]<sub>j</sub>? (Torrego 1984: (54a))  
    'To whom do you say that you don't remember what you have said?'  
    b.\*¿Qué dices que no te acuerdas [sq [a quién]<sub>i</sub> le has dicho ti t]<sub>j</sub>? (ibid.: (54b))  
    'What do you say that you don't remember to whom you have said?'

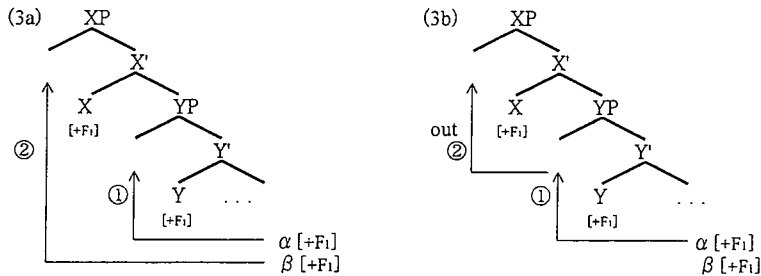
Minimalist Program(Chomsky 1995;2000)に基づく本稿において、上で確認された D-Linked Wh 要素の特殊性の解明が試みられる。本稿の発表段階で提示されたように、D-Linked Wh 要素が生起するイタリア語用例の適格性は、当該 Wh 要素が Checking に関与する Cycle において最短移動(Shortest Move)が適用されないと想定することにより説明可能である(概略は、後述する)。しかしながら、この論法は、イタリア語用例(1a)に対応するスペイン語用例(2a)を不適格と予測する(問題点)。当該論法の代替として、Chomsky (2000) が提唱する Agree 操作の修正版が提示される。

本稿は、以下のように構成される。発表内容の概略である第1節では、Richards(1997; 1999)に基づいた Wh 島制約の発動プロセスが考察される。併せて、(1b-c)の適格性を説明する論法とその問題点が指摘される。第2節では、Wh 島の制約の制約を説明する Chomsky(2000)の Agree 操作とその問題点に考察が加えられる。第3節において、Agree 操作の再解釈と精密化が試みられ、(1)の用例を説明する論法が提示される。第4節において、関係詞 Wh 要素の挙動が考察され、イタリア語内部における方言差について言及される。第5節は結びを構成し、いくつかのイタリア語用例とスペイン語用例に検討が加えられる。

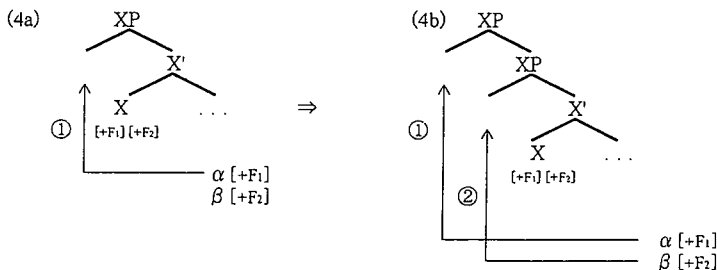
## 1. 発表の概略

Richards(1997; 1999)に基づいて、同じ素性が異なるゼロ範疇に付与された場合の移動形式を考える。(3a)

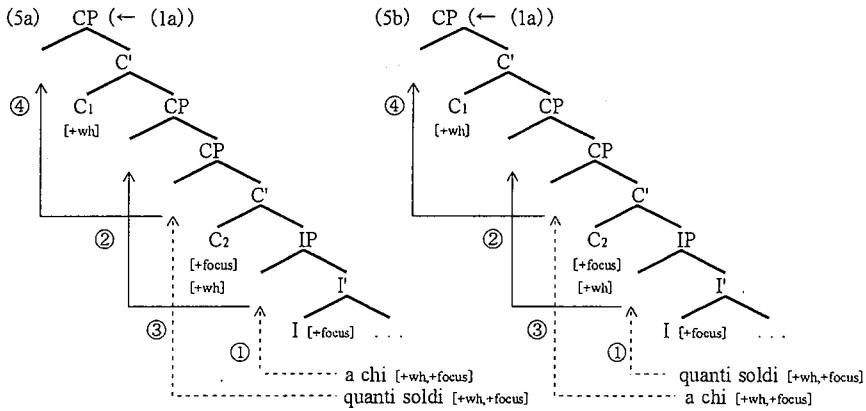
で示されるように、Y に付与された素性はより近い位置に生成された  $\alpha$  を引き寄せる (Attract Closest)。次に、 $\beta$  が X の Checking Domain に移動する。 $\alpha$  と  $\beta$  による移動 Checking により、ゼロ範疇に付与された素性が削除される。これにより、移動経路が重なり合う場合の完全包含関係 (Nesting) が生成される。同一の最大投射が連続して同じ素性に関する Checking に参加することはない。つまり、(3b) の派生が排除される。



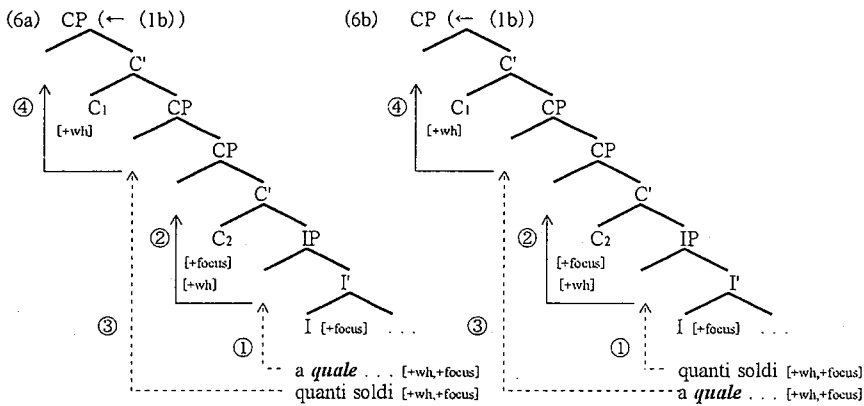
同一のゼロ範疇に複数の素性が付与される (4) の派生では、最初に  $\alpha$  が Checking に参加する (Attract Closest)。 $\beta$  は Inner Spec, あるいは Outer Spec へ移動する可能性がある。最短移動 (Shortest Move) により、 $\beta$  は Inner Spec へ移動することになる。これにより、移動経路の部分的に共通関係 (Partial Overlapping) が生み出される。



それでは、Wh 島内部からの Wh 要素の移動が排除される事象はどのように説明されるか。ここで、Wh 要素が和集合複合素性 [+wh, +focus] され、その部分素性に関する Checking に参加すると想定する。Wh 要素が関与する派生において、I に素性 [+wh], C に素性 [+focus] が付与されると考える (逆の素性付与も可能)。複数の Wh 要素が関与する場合、新たな C の投射が生成されると考える。同一のゼロ範疇に一方の部分素性が重複して付与されることはない。よって、それぞれのゼロ範疇に和集合素性の一方、あるいはその部分素性の双方が付与されることになる。(1a) に対応する派生構造 (5) において、実線で示される素性 [+wh] に関する移動経路が Nesting を構成しない (波線は、素性 [+focus] に関する移動経路を表す)。つまり、Wh 要素の Wh 島内部からの移動する派生が不適格と予測される。この予測は、Wh 要素の生成位置に関係なく成り立つ。しかしながら、イタリア語用例 (1a) の非文性を説明する論法は、対応するスペイン語用例 (2a) を不適格と予測する。これは、(5a-b) の派生構造に基づく移動経路理論が問題を内包するものであり、Wh 島の制約が他の代替理論によって説明すべきであることを物語る (本稿第 3 節で、代替理論が提示される)。



D-Linked Wh 要素が長距離移動する(1b)の適格性は、どのように説明されるか。少なくともイタリア語に関して、(5a-b)で観察された移動経路違反は、D-Linked Wh が関与する派生において Shortest Move が適用されたいと想定することにより解消される(派生構造(6a-b))。D-Linked Wh 要素が関与する派生において、非 D-Linked Wh 要素の長距離移動が排除される点に留意する必要がある。これを説明するためには、C2 の Checking Domain でその移動を停止しその移動経路が他の Wh 要素の移動経路に完全包含されない旨の Wh 一般が長距離移動する条件を想定し、この条件が D-Linked Wh 要素に対して適用されないと考える必要が生まれる。明らかに、この重複限定は *ad hoc* な感を免れない。この点でも、移動経路理論に基づく論法を他のより単純な論法によって代替すべきであると思われる。<sup>2)</sup>



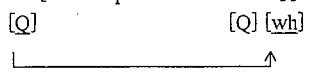
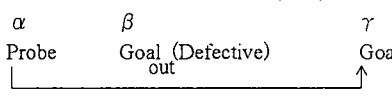
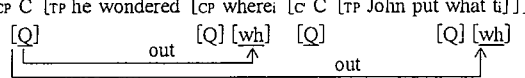
## 2. Agree 操作(Chomsky 2000)

Chomsky(2000)は、素性照合を一致操作(Agree)によって説明する分析を提案する。ゼロ範疇に付与された解釈不可能な素性(探査要素(Probe, P))は、解釈可能な同じ素性である目標要素(Goal, G)によって照合されることにより削除される。同時に解釈不可能な素性を含む G がはじめて P を照合できると考えられている(P を照合した時点で、G が含む解釈不可能な素性も削除される)。G は、P の領域(Domain of P, D(P))内にあり、

局所要件(Locality)を満たす必要がある。Agree 操作の条件として、(7)が仮定される。

- (7) The assumptions for the probe-goal system (Chomsky 2000: p.122)
- a. Matching is feature identity.
  - b. D(P) is the sister of P.
  - c. Locality reduces to "closest c-command."

Wh 疑問節 (8a) の主要部 (C) は、解釈不可能な素性 [Q] を付与される (当該素性が P となる)。Wh 要素は、解釈可能な素性 [Q] と解釈不可能な素性 [wh] を含む (解釈不可能な素性に下線を付す)。C の Sister 要素である TP が D(P) となる。この領域内にあり素性 [Q] をもつ Wh 要素 (*where*) が G を構成する。C と当該 Wh 要素の間で Agree 操作が適用され、C の解釈不可能な素性 [Q] が削除される (この段階で、Wh 要素の解釈不可能素性 [+wh] も削除され、当該 Wh 要素は欠陥要素 (Defective) を構成する)。疑問節中の C は、その Spec 位置に Wh 句を選択すると想定される。この選択特性を満足するため、[Q] を含む Wh 要素 (*where*) 全体が Spec (C) へ移動する。これにより、(8b) が生成される。

- (8) a. [<sub>CP</sub> C [<sub>TP</sub> John put the book where]]  
  
 b. [<sub>CP</sub> where<sub>i</sub> [<sub>C</sub> C [<sub>TP</sub> John put the book t<sub>i</sub>]]]?  
 (9) Defective Intervention Constraint (DIC):  
  
 (10) a. \*What<sub>i</sub> did he wonder [<sub>where</sub><sub>j</sub> [<sub>John</sub> put t<sub>i</sub> t<sub>j</sub>]]?  
 b. [<sub>CP</sub> C [<sub>TP</sub> he wondered [<sub>CP</sub> where<sub>i</sub> [<sub>C</sub> C [<sub>TP</sub> John put what t<sub>j</sub>]]]]]  


Wh 島の制約を示す (10) の非文性は、(9) の欠陥要素介入規制 (Defective Intervention Constraint, DIC) によって説明される。Embedded CP 内において、Wh 要素 (*where*) は照合 (Checking) に参加し Spec (C) へ移動しているため、欠陥要素となりその照合能力を失う。一方、Wh 要素 (*what*) は Agree 操作に参加していないため、その素性 [wh] が保持され、照合能力をもっている。Root C の素性 [Q] に対してこの Wh 要素 (*what*) のもつ素性 [Q] を G にする派生は、DIC によって排除される。前述のように、Embedded Spec (C) へ移動した欠陥 Wh 要素は (*where*) は、その照合能力を失っている。結果として、Matrix C の素性 [Q] が照合されないこととなる (同時に、Wh 要素 (*what*) の素性 [wh] も削除されない)。これにより、(10a) の非文性が説明される。

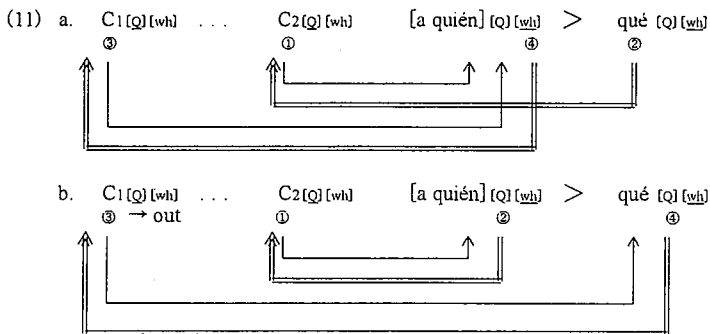
言うまでもなく、この論法は本稿のイタリア語用例 (1b-c) とスペイン語用例 (2a) を不適格と予測する (問題点)。この問題は、Agree 操作それ自体を再解釈することにより打開可能と考えられる。

### 3. Agree 操作の再解釈 (Multiple Agree)

前述のように、Chomsky (2000) の Agree 操作は、Wh 要素の Wh 島内部からの移動を排除する。最初に、D-Linked Wh 要素が介在しないスペイン語用例 (2a) の適格性に検討を加える。Chomsky (2000) と異なり、C が解釈不可能な素性 [Q] と解釈可能な素性 [wh] を付与されると想定する (Non-Echo Question において)。こ

の素性[wh] が Trigger となり、解釈不可能な素性[wh]をもつ Wh 要素が Spec(C)へ移動することになる。素性[Q]の Checking と素性[wh]の Checking が独立して適用されると考える(素性[Q]の Checking(Agree)に参加する Wh 要素と素性[wh]の Checking に参加する Wh 要素が異なる派生も存在する)(これを、分散照合(Scattered Checking)と呼ぶ)。(2a)に対応する派生(11a)において、(7c)の Locality の適用により、P である C<sub>2</sub>の素性[Q]は G である[a quién]の素性[Q]との Agree 操作によって照合・削除される([a quién](to whom)は、qué(what) よりも上位に生成される(前者が後者を C 統御する))(①)。この Agree 操作の適用よって、[a quién]に付与された素性[wh]が削除されることはない。次いで、qué が Spec(C<sub>2</sub>)へ移動することにより、当該 Wh 要素の素性[wh]が削除される(②)。C<sub>1</sub> Cycle において、C<sub>1</sub> の素性[Q]は、C<sub>2</sub>に付与された素性[Q]の場合と同様に、[a quién]の素性[Q]との Agree 操作によって照合・削除される(③)(これを、Multiple Agree と呼ぶ)。最後に、[a quién]が Spec(C<sub>1</sub>)へ移動し、当該 Wh 要素の素性[wh]が削除される(④)。

ここで、③の Agree 操作が問題となる。②において Spec(C<sub>2</sub>)へ移動した Wh 要素(qué)は、その素性[wh]を削除されるため欠陥要素を構成する。つまり、DIC の適用により、③の Agree 操作が排除される可能性がある。これは、不適格と判断されるスペイン語用例(2b)の派生構造でも同様である。ここで、DIC の適用範囲を画定する意味で、仮説(12)を想定する(関連する仮説も列挙する)。素性[Q]に関する Agree と素性[wh]に関する Checking に同一の Wh 要素が関与する派生(集中照合(Concentrated Checking))が発動する場合に DIC が適用されると考える。つまり、分散照合(それに随伴する Multiple Agree)が発動する場合には、DIC が適用されないと想定する。単純 Wh 要素が関与する場合の(11a)のパターンはスペイン語固有のものであり、英語とイタリア語には存在しない(12B)。イタリア語において、基本的に Argument XP である D-Linked Wh 要素のみが Multiple Agree に参加可能である(12C)。<sup>3)</sup>



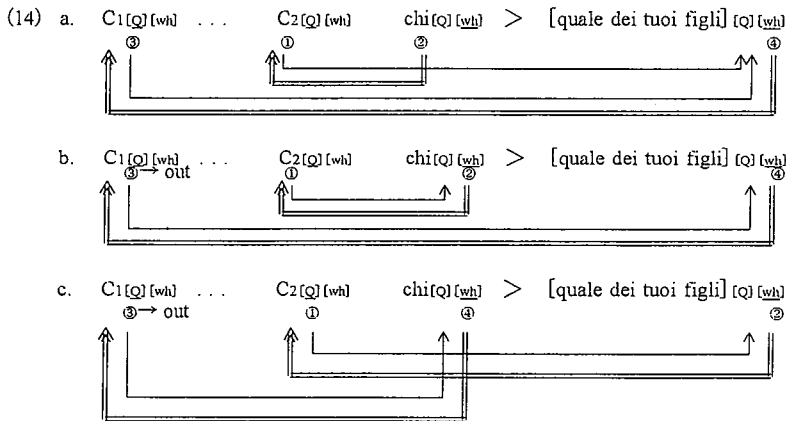
(12) Hypotheses:

- A. The DIC applies only to a derivation by dint of concentrated checking, but not scattered checking (including the resulting multiple Agree).
- B. Spanish has the strategy in which a simple wh-phrase c-commanding the other simple wh-phrase participates in multiple Agree.
- C. In Italian, the multiple Agree strategy is restricted to a D-Linked wh-phrase.
- D. In Spanish and Italian, the locality requirement in Agree (7c) does not have to be fulfilled in a derivation involving a D-Linked wh-phrase.

イタリア語用例(1a)の非文性は、(12C)によって説明される。より上位に生成された Wh 要素 (*a chi (to whom)*) が D-Linked Wh 要素でないため、Multiple Agree の適用が排除される。集中照合の派生パターン(11b)が適用され、当該用例が DIC によって排除される。一方、(1b-c)は適格と予測される。Cinque (1990) も指摘するように、一般的に D-Linked Wh 要素が Wh 島内部から移動可能である。例えば D-Linked Wh 要素が他の Wh 要素に C 統御された位置に生成された(13a)が適格と予測される。

- (13) a. [*Quale dei tuoi figli*]<sub>i</sub> non ti ricordi *chi*<sub>j</sub> ha amato *tj* ti?  
 'Which one of your sons don't you remember who loved?'  
 b. \**Chi*<sub>j</sub> non ti ricordi [*quale dei tuoi figli*]<sub>i</sub> ha amato *tj* ti?  
 'Who don't you remember which one of your sons loved?'

これは、上の(12D)によって説明される。(13a)に対応する派生構造(14a)において、Wh 要素 (*chi (who)*) は、D-Linked Wh 要素 (*quale... (which one...)*) を C 統御する位置に生成される。(12D)により、C<sub>2</sub> の素性 [Q] は、当該 D-Linked Wh がもつ素性 [wh] に照合され削除される(①)。分散照合が適用され、Wh 要素 (*chi*) が Spec(C<sub>2</sub>)へ移動し、その素性 [wh] が削除される(②)。D-Linked Wh 要素 (*quale...*) が Multiple Agree に参加し、次いで Spec(C<sub>1</sub>)へ移動する(③,④)(これにより、解釈不可能な素性 [Q] と [wh] が削除される)。つまり、派生構造(14a)の基づく派生が適格と予測されることになる(集中照合が適用される派生構造(14b)に基づく派生は、DIC によって排除される。(13b)に対応する派生構造(14c)では集中照合が適用される。この派生は、DIC によって排除される。(13a)に関する予測の妥当性は、関係詞 Wh 要素の挙動を検討する本稿第 4 節においても確かめられる。



#### 4. 関係詞 Wh 要素と方言上の差異

(15a-b)で観察されるように、Argument 関係詞 Wh 要素は自由に Wh 島内部から移動可能である。これは、長距離移動する Argument 関係詞 Wh 要素が D-Linked Wh 要素として挙動をとると前提することにより説明される。つまり、(15a)と(15b)の適格性は、それぞれ(13a)と(1b-c)の適格性を説明する論法によって説明されることになる。同様の説明法は、以下の(16a-c)と(17a-c)のすべてを適格と予測する。しかしながら、

Rizzi(1982)は、(16b)と(17b)を不適格と判断する(問題点)。

- (15) a. Il solo incarico chei non sapevi [cp<sub>1</sub> [a chi]<sub>i</sub>] avrebbero affidato ti t<sub>j</sub>] è poi finito proprio a te. (Rizzi 1982: p.50)  
'The only charge that you didn't know to whom they would entrust has been entrusted exactly to you.'  
b. Tuo fratello, [a cui]<sub>i</sub> mi domando [cp<sub>1</sub> [che storie]<sub>j</sub>] abbiamo raccontato ti t<sub>j</sub>], era molto preoccupato. (ibid.)  
'Your brother, to whom I wonder which stories they told, was very troubled.'
- (16) a. Gianni, [a cui]<sub>i</sub> ritengo che tu sappia [cp<sub>1</sub> [che cosa]<sub>j</sub>] voglio regalare ti t<sub>j</sub>], deve comunque restare all'oscuro di tutto. (Rizzi 1982: p.56)  
'Gianni, to whom I believe that you know what I want to give, must be kept in the dark about everything.'  
b. \*Gianni, [a cui]<sub>i</sub> so [cp<sub>1</sub> [che cosa]<sub>j</sub>] ritieni [cp<sub>2</sub> che voglio regalare ti t<sub>j</sub>], deve comunque restare all'oscuro di tutto. (ibid.)  
'Gianni, to whom I know what you believe that I want to give, must be kept in the dark about everything.'  
c. Mio fratello, [a cui]<sub>i</sub>; non ricordo [cp<sub>1</sub> [quali libri]<sub>j</sub>] hai suggerito [cp<sub>2</sub> che io leggessi ti t<sub>j</sub>], vive a Roma. (Engdahl 1980: fn.3)  
'My brother, to whom I don't remember which book you suggested that I should read, lives in Rome.'  
d. \*Mio fratello, [che cosa]<sub>j</sub> so [a cui]<sub>i</sub> ritieni [cp<sub>2</sub> che voglio regalare ti t<sub>j</sub>], deve comunque restare all'oscuro di tutto. (Rizzi 1982: p.56)
- (17) a. Il tuo libro, chei Gianni mi ha detto che non si ricorda più [cp<sub>1</sub> [a chi]<sub>i</sub>] ha imprestato t<sub>j</sub> ti], è ormai introvabile. (Rizzi 1982: p.56)  
'Your book, which Gianni told me that he doesn't remember anymore to whom he lent, is never to be found.'  
b. \*Il tuo libro, chei Gianni non si ricorda più [cp<sub>1</sub> [a chi]<sub>i</sub>] ha detto t<sub>j</sub> [cp<sub>2</sub> che ha lasciato ti sul tavolo]], è ormai introvabile. (ibid.: p.57)  
'Your book, which Gianni doesn't remember anymore to whom he said that he let on the table, is never to be found.'  
c. Lucia, [alla quale]<sub>i</sub> mi chiedo [cp<sub>1</sub> chi<sub>j</sub> t<sub>j</sub> possa sostenere [cp<sub>2</sub> che va assegnato ti il premio]],... (Cinque 1990: p.177)  
'Lucia, to whom I wonder who can claim that the first prize is to be assigned....'

Rizzi(1982)の用例(16a)の適格性と(16b)の非文性は、Multiple Agree の適用条件を想定することにより説明可能となる。既に述べたように、Multiple Agree は最初の Cycle における分散照合(Scattered Checking)を前提とする(Multiple Agree に参加する(D-Linked) Wh 要素は、最終の Cycle において集中照合(Concentrated Checking)の適用を受ける)。具体的に、以下の(18)を想定する。これは、Multiple Agree に随伴する分散照合に対する制限項目であり、当該分散照合が同一の CP 内に生起する P(robe)と G(oal)に限定される旨の規定である。適格と判断される(16a)において、Multiple Agree で G を構成する ti と P を付与された C は同一の CP 内に生起する(これにより、分散照合が可能となる)。一方(16b)において Multiple Agree の G となる ti は CP<sub>2</sub> 内部にあり、P を付与された C は CP<sub>1</sub> 内に生起する(分散照合の適用が不可となる。つまり、Multiple Agree それ自体の適用が排除されることになる。また、本稿の論法によって生成される(16d)は、DIC によって排除される。つまり、(16b)が不適格と予測される。これは、(17b)においても同様である。一方、(18)が適用されない Engdahl & Cinque が挙げる用例は、適格と予測される。

(18) Hypothesis (for Rizzi (1982)):

In scattered checking accompanied by multiple Agree, the goal (D-Linked Wh-phrase) of multiple Agree has to be generated in the same CP as that in which the probe [Q] assigned to C is located.

しかしながら、仮説(18)は、以下の(19a-b)を共に不適格と予測する(問題点)。関係詞 Wh 要素が Subject を構成する派生は非文でなく、周位的と判断される(Rizzi 1982: p.57)。(16b)のように、関係詞 Wh 要素が主

語以外の Argument XP である派生は不適格と判断される。(19b)において(18)の適用が停止していると考えられる。本稿では仮に、Multiple Agree の G を構成する Subject 関係代名詞が規制(18)に従う必要がないと考える(この規制適用の停止が周延的であるが)。

- (19) a.\*Questo incarico, chei non so proprio [CP<sub>1</sub> chij tj possa avere indovinato [CP<sub>2</sub> [a chi]<sub>k</sub> affiderò tk ti]], mi sta creando un sacco di grattacapo. (Rizzi 1982: p.54)  
 'This task, which I really don't know who might have guessed to whom I will entrust, is getting me into trouble'  
 b.?Questo incarico, chei non so proprio [CP<sub>1</sub> chij tj possa avere indovinato [CP<sub>2</sub> [a chi]<sub>k</sub> ti è stato affidato tk]], mi sta creando un sacco di grattacapo. (ibid.: p.57)  
 'This task, which I really don't know who might have guessed to whom has been entrusted, is getting me into trouble.'

更に、Manzini (1988, 1992)が挙げる以下の用例は、Indirect Question (IQ) と Semi-Question (SQ) の相違が峻別される方言グループの存在を物語る(このグループを B グループと呼ぶ。これまで本稿で検討された用例が属すグループを A グループと呼ぶ)。このグループにおいて、接続法 IQ Wh 島内部から[± D-Linked] Wh 要素が脱出可能である(20a-b)(接続法形態の動詞に、二重下線が付される)。その他の点では、A グループと同様の挙動が観察される。直説法 IQ Wh 島内部から抽出移動される要素として、D-Linked Wh 要素が指定される(20c, d)(D-Linked 要素として機能する Wh 要素は斜字体(太線)で示される)。SQ Wh 島内部からの移動は、D-Linked Wh 要素に限定される(20e, f)。

- (20) a. Chii ti chiedi [IQ quantij Maria ami tj ti]? (Manzini 1988: (25b))  
 'Who do you wonder how much Mary likes?'  
 b. Chii ti chiedi [IQ [che cosa]<sub>i</sub> ti abbia dipinto tj]? (ibid.: (34b))  
 'Who do you wonder what painted?'  
 c. [Quanti pazienti]<sub>i</sub> ti chiedi [IQ chij tj visiterà tj]? (ibid.: p.102)  
 'How many patients do you wonder who will visit?'  
 d.\*Quantij ti chiedi [IQ chij tj ne visiterà tj]? (ibid.: p.102)  
 'How many do you wonder who will visit of them?'  
 e. [Che articoli]<sub>i</sub> non sai [SQ chij tj abbia letto tj]? (Manzini 1992: p.100)  
 'What articles do you know who read?'  
 f.\*[Che diavolo]<sub>i</sub> non sai [SQ chij tj abbia letto tj]? (ibid.: p.101)  
 'What the hell do you know who read?'

(20a-b)で確認される B グループの特殊性は、接続法 IQ Wh 島内部における Argument [± D-Linked] Wh 要素が Multiple Agree に参加可能と想定することにより説明されるであろう。4)

## 5. 結び

最初の Cycle において顕在的な Wh 要素による分散照合が適用された場合に限り、Multiple Agree が発動する。C を構成する *se* (*whether*) が生起する以下の用例において、顕在的な Wh 要素による分散適用が発動していない。この論法は、(21a-c)のすべてを不適格と予測する(問題点)。C(*se*) の Spec 位置での空の疑問演算子生成が、当該 *se* と同一 CP 内に生起し Multiple Agree の実現に必要な顕在的な Wh 要素による分散照合の代替となると考えてみよう。(21a)において、*se* と Multiple Agree に参加する Wh 要素(*ti*)は同一の CP 内にある。(21b)、*se* と Multiple Agree に参加する Wh 要素が異なる CP 内に生起する。これにより、(21a)と(21b)



の相違が説明可能となる。Cinque グループでは、この代替の同一 CP 条件が発動しないと考えられる。つまり、(21c)が適格と予測される。5)

- (21) a. La macchina chei credo che Mario si domandi se potrà utilizzare ti nel weekend è la mia.  
(Rizzi 19825: p.56; Engdahl 1980: (2a))  
'The car which I believe that Mario wonders whether he will be allowed to use on the weekend is mine'  
b. \*La macchina chei mi domando se Mario creda che potrà utilizzare ti nel weekend è la mia. (ibid.; ibid.: (2b))  
'The car which I wonder whether Mario believes that he will be allowed to use on the weekend is mine'  
c. (?)\*Maria, [a cui]i mi hanno chiesto se sapessi chiij tj aveva scritto ti,... (Cinque 1990: p.53)  
'Maria, to whom they asked me whether I knew who had written,...'

(2a)と(2b)の相違によって例証されるように、スペイン語に固有の Multiple Agree パターンにより、SQ Wh 島内部においてより上位に生成される Wh 要素の長距離移動が許容される。主語 Wh 要素(*quién (who)*)が目的語 Wh 要素(*qué (what)*)よりも上位に生成される用例(22a)で例証されるように、一般的に Wh 要素が IQ Wh 島内部から移動することはない(IQ Wh 島内部において、この固有の Multiple Agree パターンが適用されない)。しかしながら、長距離移動する Wh 要素に対応する対格再述接語(Accusative Resumptive Clitic)が生起する派生は許容される(22b)。SQ Wh 島内部においてより下位に生成される Wh 要素の長距離移動は、当該 Wh 要素に対応する Resumptive Clitic を随伴する場合に限り許容される(22d)。

- (22) a. \*¿Quiéni preguntaste [IQ quéj ti había comprado tj]?  
'Who did you wonder what had bought?'  
b. ¿[Cuántas novelas]i te dijeron [IQ que quiéni tj lasi había escrito tj]? (Suñer 1995: (57a))  
'[How many novels]i did they ask you that who had written them?'  
c. \*¿[Qué libro]i no sabes [sq quiéni tj compró tj]?  
d. ¿[Qué libro]i no sabes [sq quiéni tj loi compró tj]?  
'[Which book]i don't you know who bought it? (Contreras 1992: (11b))

(22b, d)の適格性は、Accusative Resumptive Clitic を随伴する Wh 要素が D-Linked Wh 要素として機能すると想定することにより説明可能となる。これは、イタリア語用例 (1b-c)の適格性を説明する仮説(12)に並行するものである。6)

## 註

- \*) 本稿は、日本ロマンス語学会第 39 回大会(香川医科大学 2001 年 5 月 19 日)における口頭発表の一部を拡張・修正したものである。
- 1) D-Linked Wh 要素は、斜字体(太線)で表記される。(1b)の Matrix V (*ricordarsi "remember"*)は、Semi-Question (SQ)を導入する。(1c)の Matrix V (*chiedersi "wonder"*)は Indirect Question (IQ)を導入する。つまり、D-Linked Wh 要素は、SQ Wh 島と IQ Wh 島の双方から長距離移動する。(2a)において、D-Linked Wh 要素が関与しない点に留意されたい。後述するように、スペイン語において IQ Wh 島内部からの Wh 要素の長距離移動が排除される。
- 2) この移動経路理論では、長距離移動する Wh 要素が Matrix Spec (C) へ移動するプロセスが不分明である。つまり、どのようなプロセスによって Matrix C に長距離移動する Wh 要素を引き寄せる素性が付与されるかが明らかでない。
- 3) これにより、Adjunct Wh 要素が Wh 島内部から移動不可能な事実が説明される (ia-b)。
- (i) a. \*Come non sai che problema potremo risolvere? (Rizzi 1990: p.73)  
'How don't you know which problem we could solve?'

- b.\*Per che ragione non ti ricordi che cosa abbiamo detto? (ibid.: p.91)  
 'For what reason don't you remember what we said?'

4) Cinque が挙げる用例 (ia, b) は問題を惹起するように思われる。イタリア語の Wh 要素 (*che* (*diabolo*), (*che*) *cos'altro di AP*) は、D-Linked Wh 要素として機能することはない (Cinque 1995: p.241)。何らかの要因により、同じこの Wh 要素に対して B グループの特殊性が適用されないと考えてみよう。これにより (ia, b) が説明され、(ic, d) の予測が可能となる。

- (i) a.\*Che cos'altro di interessante ti chiedevi [iQ chi avesse fatto]? (Cinque 1995: (54a))  
 'What else interesting were you wondering who had done?'  
 b.(?) A chi ti chiedevi [iQ che cosa avessero dato]? (ibid. 1990: p.52)  
 'To whom do you wonder what they had given?'  
 c.[Che diablo]j ti chiedi [iQ chii ti abbia dipinto ti]?  
 'What the hell do you wonder who painted?'  
 d.\*[Che diablo]j non sai [sq chii ti abbia dipinto ti]?  
 'What the hell don't you know who painted?'

5) この論法は、Cinque グループの用例としての (21b) を適格と予測する。  
 6) Jaeggli が挙げる以下の (ia) の非文性は、(2a) の適格性と衝突する。この特異性は、Jaeggli グループにおいて、Multiple Agree が Subject Wh 要素と直接目的語 Wh に限定される想定することにより説明される (Multiple Agree が与格 Wh 要素に適用されない)。本稿の論法が妥当する場合、(ib) もまた非文と予測される。

- (i) a.\*¿[a quién]i no sabías [sq qué lei regalaron ti tj]? (Jaeggli 1982: p.170)  
 '[To whom]i didn't you know what they gave himi?'  
 b.\*¿Quéj no sabías [sq [a quién]i lei regalaron ti tj]?  
 'What didn't you know [to whom]i they gave himi?'

#### 参考文献

- Cinque, Guglielmo (1990) *Types of  $\bar{A}$ -Dependencies*, Foris, Dordrecht.  
 Cinque, Guglielmo (1995) "Long WH-Movement and Referentiality," *Current Issues in Comparative Grammar*, ed. by Robert Freidin, Kluwer, Dordrecht.  
 Chomsky, Noam (1995) *The Minimalist Program*, MIT Press, Cambridge, MA.  
 Chomsky, Noam (2000) "Minimalist Inquiries: The Framework," *Step by Step*, ed. by Roger Martin, David Michaels, and Juan Uriagereka, MIT Press, Cambridge, MA.  
 Contreras, Heles (1992) "On Resumptive Pronouns," *Current Studies in Spanish Linguistics*, ed. by Héctor Campos and Fernando Martínez-Gil, Georgetown University Press, Washington, D.C.  
 Engdahl, Elisabet (1980) "WH Constructions in Swedish and the Relevance of Subadjacency," In *Proceedings of the Tenth Annual Meeting, NELS*. GLSA, University of Massachusetts, Amherst.  
 Jaeggli, Osvaldo (1982) *Topics in Romance Syntax*, Foris, Dordrecht.  
 Manzini, Maria Rita (1988) "Constituent Structure and Locality," *Constituent Structure*, ed. by Anna Cardinaletti, Guglielmo Cinque, and Giuliana Giusti, Foris, Dordrecht.  
 Manzini, Maria Rita (1992) *Locality: A Theory and Some of its Empirical Consequences*, MIT Press, MA.  
 Richards, Norvin (1997) *What Moves Where When in Which Language?* Ph. D. dissertation, Massachusetts Institute of Technology.  
 Richards, Norvin (1999) "Featural Cyclicity and the Ordering of Multiple Specifiers," *Working Minimalism*, ed. by Samuel David Epstein and Norbert Hornstein, MIT Press, MA.  
 Rizzi, Luigi (1982) *Issues in Italian Syntax*, Foris, Dordrecht.  
 Rizzi, Luigi (1990) *Relativized Minimality*, MIT Press, Cambridge, Massachusetts.  
 Suñer, Margarita (1995) "Negative Elements, Island Effects and Resumptive no," *The Linguistic Review* 12, 233-273.  
 Torrego, Esther (1984) "On Inversion in Spanish and Some of its Effects," *Linguistic Inquiry* 15, 103-129.